

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

# 学校便り

第286号  
平成23年8月25日

練馬区立光が丘第八小学校  
校長 鈴木 隆志

## 「なでしこジャパン」から学ぶこと

校長 鈴木 隆志

猛暑の中、各御家庭でも節電に努められたことと思います。学校でも、大震災以降、組織的な節電対策に取り組んでいます。6月は27%減、7月は29%減と、目標である18%減を上回る成果を上げています。今後も、節電対策は継続して行っていきます。

さて、夏休みが終わり一学期再開を迎えました。光っ子たちが、夏休みの間、大きな怪我や病気、事故もなく、毎日を健康に過ごし、元気な顔で登校してきたことを、何よりも嬉しく思っています。学校便り前号で夏休み期間にお願いをした「学びの継続」はいかがだったでしょうか。学期が始まっても、「家庭での姿」を身に付けさせるために、引き続き御協力をお願いいたします。

夏休み直前の7月18日、W杯ドイツ大会で、なでしこジャパンが優勝の快挙を成し遂げました。私も、一次リーグの試合から決勝トーナメントまで、毎試合テレビの前で応援をしていましたので、優勝の瞬間は、思わず大声をあげて喜んでしまいました。決勝戦の興奮から一ヶ月、8月18日にはチーム全員に国民栄誉賞が贈られました。なでしこジャパンのこれからの活躍にもエールを送りたいと思います。

ずいぶん前ですが、男子の試合の前座試合として行われた女子の試合を観戦したことがあります。今回のなでしこジャパンは、その頃に比べて飛躍的にレベルアップをしていました。しかし、技術もフィジカルもメンタルもチームワークも、一朝一夕に成長・進歩したわけではないはずです。今回のW杯優勝という「成功」の裏には、計り知れないほどの努力が隠されていると思うのです。

「成功」の反対は何でしょうか。「失敗」でしょうか。確かに、たくさんの失敗を重ねてこそ成功するとも言えます。だから、失敗を恐れてはいけません。でも、ここでの正解は違います。「成功」の反対は、「何もしないこと」なのです。やりたいことをやり遂げた人たち（成功者）とは、どんな失敗も糧にして、できることをやり続けた人たちなのです。成功者としてのなでしこジャパンから学ぶべきことは、このことだと思います。

もう一つサッカーの話をしてみたいと思います。もう30年以上も昔になりますが、ある優秀な若手選手のことを思い出しました。彼は、小学生の頃から将来を嘱望されて、海外留学も経験し、自信満々で代表選手候補の合宿に参加をしました。ところが、自信過剰のためか、練習の準備も片付けも全くしなかったのだそうです。準備の整ったグラウンドに姿を現し、練習が終わると、ボール一つ片付けることなくグラウンドから立ち去っていた彼を見て、当時の監督は、彼を代表選手にしなかったと聞きました。監督は、同世代の仲間と苦労を共にせず甘い汁だけを吸う彼に対し、選手としてより、人間として厳しい評価を下したのだと思います。やはり、成功の陰には、たくさんの苦労も潜んでいるのです。

今年の夏、なでしこジャパンの活躍に光っ子たちの将来の姿を重ね合わせながら、光っ子たちは、今こそ、努力をすべきとき、苦労をすべきときと感じていました。大震災、原発事故等の教訓を生かすのも、安心・安全な新しい時代の担い手となるのも、将来の大人である光っ子たちです。今こそ、知・徳・体の生きる力をしっかりと身に付けてほしいと願っています。

終わりになりましたが、夏休み期間中も、たくさんの光っ子たちが参加した「ラジオ体操」（7月21日～29日）でのお世話、この夏唯一の地域祭礼となった愛宕神社・金魚市（7月24日）でのパトロール、29名の光っ子たちが参加をした第七地区委員会の「エンジョイ武石」（7月25日～26日）での引率、3名の光っ子ジュニアリーダーが参加をした練馬区・青少年委員会共催の「ジュニアリーダー・秩父キャンプ」（8月7日～9日）での引率と、保護者の皆様、地域の皆様方には、大変お世話になりました。心より、感謝申し上げます。